

新型コロナ

病床上積みも現場逼迫

相次ぐ欠勤、対応力低下

新型コロナウイルスの感染者数は昨年十一月以降、「二十万人を超える日が見られ、流行「第八波」による医療現場の逼迫が続いている。政府や自治体は感染拡大のたびに病床の上積みを図り、昨年十一月時点での最大確保病床数は約五万床に上った。しかし、クラスター（感染者集団）の発生などにより医療従事者の欠勤が相次ぎ、対応力は低下している。

内閣官房が十三日に発表した最新のデータでは、病床使用率が50%を上回ったのは三十四都府県。神奈川、滋賀、岡島、川、玉、知、島、香、埼、愛、広、大、栃木県で「緊急事態宣言」が発令され、小数値の症例を含めると、

川、滋賀の両県では80%を超えた。厚生労働省によると、一月四日時点では欠勤している看護職員数は少なくとも全

国で一万人超。病床を確保していくにも担う人がおらず、十分に活用できない状況だ。救急車の到着後も搬送先が決まらない「救急搬

送困難事業」は最多を更新し、症状が悪化しても自宅で療養せざるを得ない患者が出ている。

患者の窓口となる発熱外来の負担も増大している。インフルエンザはコロナ禍においても担う人がおらず、十分に活用できない状況だ。救急車の到着後も搬送先が決まらない「救急搬送困難」となった。コロナの一日前たりの感染者数が過去最大だった昨年の第七波の約「十六万略化したため、実感が正確には達していないものに反映されていない恐れもある。

	病床使用率の上位10県
神奈川	82.6%
80.6	
78.5	
77.1	
71.1	
71.0	
70.9	
70.8	
70.2	
68.8	

※内閣官房の「緊急事態宣言」による。

小数値の症例を含む。

病床使用率の上位10県